
『おねえちゃん』

わたまー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『おねえちゃん』

【ZPDF】

Z0233A

【作者名】

わたまー

【あらすじ】

今日は哀の誕生日。哀は買い物をしてくると後ろから蘭がやってきた・・・

「（なんじんと、玉ねぎと、じゃがいもと、カレーのルー···全部
買つたわね···。」

博士からわたされたメモをと中身を見比べて確認する。

今は4時過ぎ···見た田が小学生の女の子がこんな買い物してるところなんて、他じや見れないわね···。

私が今の身体じや重いスーパーの袋を持って歩いてると、後ろから彼女の声が聞こえてきた。

「哀ちゃん···おつかい？」

その彼女は走ってしゃべりながら近づいてきた。

「今日（ナン）君に聞いたんだけど、明日、哀ちゃんの誕生日なんだ
ってね？」

だから何でも言つて？わたし、できる（ひと）なら、何でもしてあげる
からね？」

え···？明日が私の誕生日···？江戸川君、どうしてそれを···
···？？

私が立ち止まると彼女も立ち止まつた···。

田の前は公園···ベンチに座つて話しこよみじた。

「何でも？」

私が聞くと、彼女はこつこつ笑つてうなずいた。

「うん。何でもだよ！－！」

彼女はニコニコ笑つている。

まるで、あの時のお姉ちゃんみたいに···。

10年前のお姉ちゃんみたいに…………。

「おひねえちやん……」

私はソファーで本を読んだらお姉ちゃんのところに走つてこつた。

「あ、志保。どうしたの？」

お姉ちゃんは読んでいる本を閉じて私を見た。

「あのねー今日が何の日か知ってる?」

私が聞くと、お姉ちゃんはちょっと首をかしげてみせた。

「さあ・・?何かしら?なあに?志保、おしえて。」

「聞いておどろかないでねーーー今日は志保の誕生日なのーーー」

「えーーー志保8才になるの?すごいねえ!ーーーおめでとうーーー志保ーーー!」

少しおどいたみたい。二口二口笑つてくれてる。

「あのねつつーー志保ね、友達の中で3番目に8歳になるんだよーーー!みつちゃんとさつちゃんの次に8歳だよーーー」

私もここにこじり言つた。

「そつかーーー8才か。じゃーねえ、お姉さんになつた志保に、お姉ちゃんがプレゼントをあげましょーーー!」

「えーー?なーーに?何くれるの?」

私はお姉ちゃんのトナリにすわつた。

「何でもいいのよ。志保。お姉ちゃん、できる」となり何でもしてあげるからね。」

お姉ちゃんは笑つてる。私は考えた。

「うーん・・・じゃあね、お姉ちゃん。志保のそばにずっといて？」

パパやママみたいに、志保を残して天国に行くなんてことしないで

！―志保、1人はいやなの・・・！」

私が言い終わると、お姉ちゃんは笑つたまま私に言った。

「ええ。ずっと志保のそばにいるわよ。」

「約束だよー！お姉ちゃん！ー！」

「ひつき・・・・・・・

私が急いで断ると彼女は笑つたままで言つた。

「ううん。そんなことないよ。いこよ、哀ちゃん。

「・・・・・ありがとう・・・・・。」

「

(後書き)

（作者より）

これが2回目の投稿です^ ^
あつでもPNかえたんで（汗
これからも宜しくお願ひ致します。あと感想をいただければ光栄で
す。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0233a/>

『おねえちゃん』

2010年10月17日06時14分発行